

成果の説明書

(氏名) 佐藤 敦子	(学部) 経済学部 国際学科
1 重要事項	
【研究】	
① 個人投資家のサステナビリティ選好に関する実証研究に取り組んでいる。令和4年度に学内研究奨励費を活用して実施したインターネット・アンケート調査の結果の検証を行い、研究結果を論文（共著）として発表した（阿部圭司,佐藤敦子,田戸岡好香,水口剛,宮田庸一「ESG投資を促進する要因の検討：サステナビリティおよび金融への態度とリテラシーに注目して」『産業研究』第59巻2号 pp.1~22, 高崎経済大学）	
② 科研費 基盤研究 (C)「芸術文化団体の社会的インパクト評価とファンドレイジングの学際的研究」を受け、本邦芸術団体の社会課題解決への取り組み事例の調査を行った。対象期間最終年度であったため、これまでの研究成果を論文（単著）として2件発表した。（佐藤敦子「本邦芸術団体による社会課題解決への取り組みー鼓童文化財団の事例ー」『産業研究』第59巻1号 pp.1~13, 高崎経済大学）（佐藤敦子「本邦芸術団体による社会課題解決への取り組み：東京文化会館コンビビアル・プロジェクトの事例研究」『産業研究』第59巻2号 pp.23~44,高崎経済大学）	
【教育】	
① 2024年3月にタイ国バンコクにて海外フィールドワークを行い、9名（演習II）の学生が参加した。現地では日系民間企業（三菱UFJ銀行が資本参加しているアユタヤ銀行）やタイ早稲田日本語学校を訪問し、現地のプロフェッショナル人材や日本語を学ぶローカル人材と議論・交流する機会を得て、日本との様々な違いに関する貴重な知見を得た。海外フィールドワークは、ゼミ生にとって単なる海外体験に留まらない、貴重な学習機会であると、実施教員として改めて認識した次第である。	
② 演習Iにおけるゼミ活動の一環として、日本経済新聞社主催「日経ストックリーグ」に参加した。ゼミ生は合理的かつ社会的に意義のある投資テーマの確立とバーチャル投資ポートフォリオ設定に取組み、社会課題に対するアプローチ、企業分析、チームワークなどについて多くの学びと気づきを得たようである。基礎演習においては、株式会社マイナビ主催のオンライン・ビジネス・アイデア・コンテストに参加した。	
③ コロナ禍による様々な行動制限が解除されたので、基礎演習、演習I、IIの合同ゼミ合宿を9月に実施した。異なる学年のゼミ生達の活発な交流の機会となり、参加した学生達から好意的なフィードバックが寄せられた。	
④ 学外の実務家を招き、ゼミ生や担当講義科目履修生向けに行った。具体的には（株）Property Innovation Consulting 山崎氏「国際サプライチェーン・マネジメントの現状と展望」（2023年7月）である。	
⑤ 堀内勉氏（多摩大学大学院経営情報学研究科教授／100年企業戦略研究所所長）を招き、「知の創造と読書」と題した地域科学研究所主催の第19回公開講演会を実施した。	
2 その他の事項	

- ① 学内：FD・SD 委員会委員、高崎経済大学経済学会理事
- ② 学外：群馬県庁 景気動向指数アドバイザー委員（2017 年 5 月～）、川崎市文化芸術振興会議委員（2018 年 2 月～）、公益財団法人鼓童文化財団 理事（2019 年 4 月～）、株式会社ディー・エヌ・エー 社外監査役（2019 年 6 月～）、株式会社ゆうちょ銀行 社外取締役リスク委員会委員（2022 年 6 月～）

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、令和 5 年度に引き続き「ESG /サステナブル・ファイナンス」「社会的インパクト評価」「文化芸術団体の社会課題解決」の研究と論文発表に取り組む所存である。

教育面では、学生の学習効果および国際的素養を高めるべく、引き続き、効果的な学習機会創出に鋭意取り組む所存である。ゼミ演習以外の担当講義科目について、「国際マーケティング論」「Introductory Management」「異文化経営論」それぞれの最新の学術的知見を盛り込みながら、学生の興味関心を高めるような教材提供に取り組む。また、学生の積極的な授業参加およびアクティブラーニングを意識して、一方通行の講義をするのではなく、学生参加型の講義運営に努める所存である。